



啓発型健診について市町村や企業の担当者が理解を深めた研修会

「啓発型」の効果報告

県総合健診センター 企業担当者ら研修

県総合健診センター（中路重之理事長）は7日、青森市で研修会を開いた。中路理事長は弘前大学が普及を進める啓発型健診の効果などを報告し、市町村や企業の健診担当者らに導入を呼び掛けた。

啓発型健診は健康教育に力点を置き、受診

から約2時間で本人に結果を伝えることで、受診者の健康意識と行動変容につなげる効果が期待される。

研修会には約160人が参加。中路理事長は「健診結果を見ながら指導を受けるため、受診者に改善方法が伝わりやすい」と啓発型

健診のメリットを説明。「健診はあくまで2次予防だが、そこから全体のリテラシー向上につなげたい。ぜひ取り入れてほしい」と呼び掛けた。

会場には健診に使われる測定器の一部が用意され、参加者は実際に啓発型健診を体験し、導入を検討した。

（油川修一）